探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：尾道市立長江中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
尾道市立長江中学校	7	203
尾道市立長江小学校	8	133
尾道市立土堂小学校	9	173

（R5.12.1現在で記入）

1　研究の概要

（1）研究テーマ及び研究のねらい

○テーマ

「答えのない問い」に果敢に挑戦し、他者と協働して自分たちなりの価値ある答えを見出す探究的な学習の創造

○研究のねらい

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。

（2）資質・能力の設定について

中学校区で共通認識をもって児童生徒を育成するために「9年間のゴール、中学校３年生で育成を目指す姿」を、「答えのない問い（解が１つではなく条件の中で複数の視点から考えられる問い）に対して、自ら進んで解を導き出し、それを交流することができる。その際、他者の解とすりあわせながら、現時点で考えられる最適解を導き出せる。」と設定した。

そして、「9年間のゴール、中学校３年生で育成を目指す姿」を踏まえながら、３校の児童生徒の実態を把握していく中で「中学校区で共通して育成したい資質・能力」を「主体性・協働性」と設定した。

（3）取組について

○９年間の関連を意識したカリキュラムの活用と更新

カリキュラムの縦の関連性（学年間の関連性）を意識し、中学校３年生で目指す姿を実現するために、これまでどのような探究課題に触れて学びを進めてきたかが分かる学びの足跡を「カリキュラムレコード」として整理した。それらを活用し、９年間を見通した学びとなるよう各学年のカリキュラムを再編成した。

○資質・能力の評価の在り方の確立（ルーブリックの活用と教師によるフィードバック場面の明確化）

評価基準を明確にしたルーブリックを活用し、児童生徒自身が身に付いた資質・能力の向上や変容を自覚できる振り返りを実施した。

また、ルーブリックを活用した振り返り場面を単元の中で計画的に設定し、教師がルーブリックを活用した振り返りを正しく見取り、児童生徒自身や単元づくりにフィードバックして授業改善を進められるようにした。

○「長江中学校区ＰＢＬを意識した単元開発のポイント」の整理と共有

①児童生徒が自分事として考えることができるテーマの設定

②児童生徒と共有、調整していく単元計画の作成

③多様な視点、新しい課題に気付かせるショック（新たな「えっ!?なぜ？」）の場面の設定

④多様な視点、考え方（実生活・実社会）に触れさせるための地域人材の活用

の４点を意識し、児童生徒が主体的・協働的に学習に取り組むことができる単元や授業の展開の見直しを進めた。

2　実践事例

①「長江中学校区カリキュラムレコード」の作成と活用

カリキュラムの縦の関連性（学年間の関連性）を意識できるように、小学校１年生から中学校３年生までどのような探究課題に触れて学びを進めているのか、学びの足跡を「長江中学校区カリキュラムレコード」として整理した。

それぞれの学年だけの学習内容だけではなく９年間の学習を関連付けながら視点を広げて探究的な学びを創造するために活用した。

教科書がなく地域ごとの特性や児童生徒実態を生かして単元づくりが進められる総合的な学習の時間において、次年度への引き継ぎにも活用し、新しく転任してきた先生などでも、見通しをもって単元開発に取り組むことができるツールとしても活用していくことを計画している。

②ルーブリックの作成と活用

児童生徒が、中学校区で設定した資質・能力（主体性・協働性）の高まりを自覚し、形成的評価（授業者の授業改善、学習者の学習改善）へとつなげるためのルーブリック（評価基準表）を作成した。

○各単元のルーブリック作成、活用の流れ

- 中学校区の全教職員で資質・能力の発揮された具体的な姿について話し合い、資質・能力に対して共通理解をもった。
- 教職員で話し合った資質・能力の発揮された具体的な姿などを児童生徒とも共有し、児童生徒自身もイメージできたり納得できたりする言葉で整理した。
- 児童の言葉で整理した資質・能力の発揮された具体的な姿と現在の児童生徒の実態とを比較しながら、Ａ（十分に満足）、Ｂ（おおむね満足）の姿を設定した。
- 振り返りの場面で活用し、学習計画の修正など、授業づくりにつなげた。

③授業実践

尾道市立土堂小学校　第６学年

「太鼓で笑顔盛り上げ大作戦！！！！」

<u>○課題設定</u>

自分たちにとって「総合的な学習の時間」とは何かを全員で振り返り、「地域をより良くする活動である」と考えた。そこで「尾道の課題は何なのか」という疑問をもち、まずは課題を探るところからスタートした。

○情報の収集、整理・分析

公民館長、社会福祉協議会の方にインタビューをして、いくつか課題が見えてきた。しかし、地域の人はどの課題を一番解決してほしいと思っているのか分からないので、実際に地域に出てアンケートを行った。

○整理・分析

アンケートの結果、「土堂っ子太鼓で地域を元気にしてほしい」「地域の人同士のつながりをもっともてるようにしたい」という思いがあることが分かった。そこで、探究テーマを「太鼓で笑顔盛り上げ大作戦」と設定し、地域の方との交流会を開くこととした。

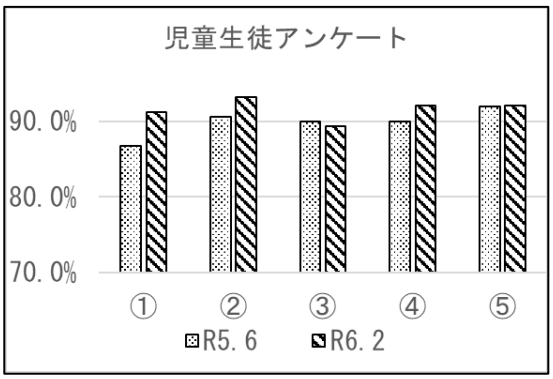
○整理・分析

遊びのブースを作って地域の方に回ってもらうことで、地域の人同士で関わり、つながりがもてるのではないかと考え、計画・準備を行った。また、下級生とリハーサルを行い、気付いた点などのアドバイスをもらい、改善を重ねた。

○まとめ・表現

地域の方に呼びかけて、交流会を開催した。ブースごとの遊びや太鼓で地域の人同士の交流、地域の人と子供たちの交流をすることができた。これらの活動を継続的に行うために、活動の反省を下級生に伝える方法も考えた。

３　研究の成果と課題等



①「生活科・総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。（探究的な学習）

R5年6月 86.8%　　R6年2月 91.3%

②話し合いに参加するときには自分の考えをもつことができています。（主体性）

R5年6月 90.6%　　R6年2月 93.2%

③課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいます。（主体性）

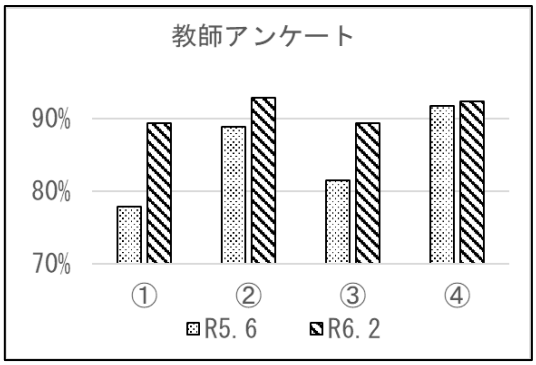
R5年6月 90.0%　　R6年2月 89.3%

④話し合いのときには友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかり伝えています。（協働性）

R5年6月 89.9%　　R6年2月 92.1%

⑤かかわりを通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています。（協働性）

R5年6月 92.0%　　R6年2月 92.1%



①児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができています。（主体性）

R5年6月 77.8%　　R6年2月 89.3%

②児童生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています。（協働性）

R5年6月 88.9%　　R6年2月 92.9%

③授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れています。（探究的な学習）

R5年6月 81.5%　　R6年2月 89.3%

④生活科・総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしています。（探究的な学習）

R5年6月 91.7%　　R6年2月 92.3%

（１）成果

児童生徒アンケートにおいて、すべての項目で肯定的回答の割合が90%に近い数値となった。資質・能力（主体性・協働性）や探究のプロセスが多くの児童生徒に定着している。

児童生徒が自分たちで考え出した課題を出発点に学習計画を作成し、それを確認しながら学習を進めたことによって、探究的な学習のイメージをもって学習に取り組むことができる児童生徒が増えた。また、ルーブリックによって改めて身に付けたい資質・能力を定義し、児童生徒が資質・能力を意識しながら学習を進めたことが資質・能力の高まりにもつながっている。

教師アンケートにおいて、すべての項目で肯定的回答の割合が向上した。学校全体で研究に取り組むことで、探究の過程を意識した授業づくりに対する意識変革を進めることができた。

（２）課題

児童アンケートにおいて、それぞれの学級や学年で見ると肯定的回答の割合は高まっているが、一方で否定的な回答の児童生徒が固定化している。特に探究的な学習についてはプロセスの提示だけではなく、その良さを児童生徒に実感させる必要がある。

（３）今後の改善方策等

○「長江中学校区カリキュラムレコード」の活用・意識化

他教科や他学年の学習の関連性を教師が意識するとともに、整理したカリキュラムレコードを児童生徒と共有し、児童生徒自身が意識して学習に取り組むことができるようにする。

○児童生徒の自己変容の自覚・学びの良さの実感

探究的な学習がプロセスをなぞるだけの形式的な手順にならないよう、探究的な学習によって新しい見方・考え方が働いていることや自己の変容を自覚させることを通して、探究的な学習のよさを児童生徒自身が実感できるようにする。